

岐阜に縁ある東京下町の「赤い橋」

「でえれゝ岐阜」プランナー

森 秀幸（揖斐郡大野町出身）

東京の東側、江東区木場に、「新田橋」という名称の「赤い橋」があります。

5丁目と6丁目の間に流れる大横川（旧・大鳥川）にかかり、同橋と水路、周辺の緑の一体感が評価され、第一回江東区まちなみ景観賞（平成2年）にも選ばれた趣のある人道橋です。

本来に小さな橋ですが、民間による寄贈橋として有名で、2008年6月7日放送の「出沒！アド街ック天国」でも取り上げられています。

実はこの橋、岐阜に縁の深い橋なのです。大正時代、岐阜から上京し木場5丁目に医院を開業していた新田清三郎という方がいました。昭和7年（1932年）、新田医師のご夫人が、不慮の事故で亡くなってしまいました。新田医師は夫人の霊を慰める「橋供養」の意味を込めて、近所の多くの人たちと協力してこの橋を架けたそうです。当初は「新船橋」と名付けられましたが、新田医師の没後、いつしか「新田橋」と呼ばれるようになりました。

町の相談役としても人望が厚く、「木場の赤ひげ先生」的な存在であった

た新田医師が、いかに地域の人々から愛されていたかが偲ばれます。

また、林芙美子原作、成瀬巳喜男監督の映画「稲妻」（1952年製作・大映東京）にも新田橋は登場します。作品中、高峰秀子と三浦光子の姉妹が、急逝した三浦の亡夫の後始末のため、彼の愛人だった中北千枝子に会いに行きます。中北が二階を間借りする家がこの大横川沿いであり、二人は新田橋を渡ります。新田橋を渡った向こう側には、船宿があり、また中北が住んでいそうなさから子下見（※注）の木造二階建て家屋があります。この先に遊郭があった昭和の風情を踏まえた舞台設定だったのでしょうか。

ちなみに、この船宿は木場で最後となった船宿II深川吉野屋（創業昭和20年）です。他にも、テレビの舞台ともなり、下町の人々の生活や歴史の移り変わり、出会いや別れなど様々な人生模様をこの橋は静かに見守り続けてきたのでしょうか。

平成12年の護岸整備により現在の橋に架替えられましたが、当時の橋は八幡掘遊歩道に移設され大切に保存されています。

実は当初、江東区新木場三丁目の同区の資材置き場に保管されましたが、地元から橋の保存を求める声が大きく、約700万円かけて同遊歩道に移動。地上に安置してペンキを塗り直すなど復元作業を施したそうです。

ちなみに、同遊歩道には、日本最古の鋳鉄橋で国の重要文化財に指定されている八幡橋が架設されており、江東区では旧新田橋の保存に加え、将来的にはこれまでに同区内で撤去された橋の橋名板（五十五枚が現存）を集めて展示するなど同遊歩道をいわば「橋の屋外博物館」として整備する構想を練っているそうです。

私は毎朝、新田橋を渡り木場駅へ向かい、帰りはどの方面から帰ろうと、あえてこの橋を渡って帰宅します。そして、必ず一度立ち止まり、新田医師の活躍と人望を偲びながら克己復礼、私自身もそんな足跡を残せるような人物になろう、と言い聞かせています。

岐阜出身者なら、必ず感じるものがあると思いますよ。お近くにお立ち寄りの際は、皆様もぜひ。

（※注）ささら子下見（板張り）
木造建築物に見られる外壁加工。湿度による板の伸縮割れを防ぐために、上部のみを固定し重ねた部分にあそびを残したものを下見板張りと言う。ギザギザに加工した押縁（おしぶち）がささら子。



木場6丁目側から新田橋を臨む

■新田橋データ

◎現在

架設形式…1径間鋼製ガーダー橋
架設年月…平成15年3月（架替）
橋 長…15.060m

◎初代

架設形式…ポニーウォレントラス
架橋年月…昭和7年6月
橋 長…23.4m